

編集後記

長引くパンデミック、二極化対立の激化により戦火が拡大する世界、少子化と人口減、物価高と実質賃金低下に喘ぐ日本、不安と抑うつと不幸が確実に増大している。

蒲谷論文は「先行研究では持続性知覚性姿勢誘発めまい^{PPPD}の頻度は、最も頻度の高い良性発作性頭位めまい症^{BPPV}に次ぐ2番目としているのに対し、本研究ではメニエール病が2番目に多く、3番目に多いのがPPPDであった」と報告した。めまいに限らず有病率に比例して受療するとは限らないが、PPPDとパニック障害の併存なども疾病論的に興味深い。

*** **** ***

精神科と産科との連携による長年の研究成果を示した尾崎論文は「この疾病モデル作成に繋がった周産期コホート研究により、産後1ヶ月時点の抑うつ状態を呈するリスク因子と保護因子が同定された」と結論している。産後うつ病、母子心中の予防に繋がる貴重な業績だろう。

=====

浅田論文の「不妊治療の保険適用は少子化対策と切り離して議論してほしいし、我が国の生殖医療のレベルが維持できる仕組みが必要」との言説は不妊治療に長年取り組んできた著者ならではの主張^{オピニオン}だ。ヒトに限らず不妊治療が増えているが、妊活は自然体が良い。

人工授精と自然受精で産後うつ病の発生頻度は違うのか、課題は尽きない。三論文は診療科の枠を超えて多くの読者に語りかけるものがある。

(粥川 裕平)

編集委員 (50音順 *印委員長)

池山 淳* 粥川 裕平
平井 長年 三浦 義孝

明日の臨床

Vol. 35 No. 2

2023年12月5日発行

編集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎(052) 832-1345

制作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 7,000部